

くらしに役立つなんでも相談

健康の悩み、生活・家庭  
の心配ごとなど、なんでも  
気軽にご相談ください。

友の会コーナーへ



健康づくり 生きがいづくり 友だちづくり まちづくり

# 友の会だより

中野共立健康友の会・広報委員会発行  
〒164-0001 中野区中野5-45-4

Eメール：a\_nozawa@kenyu-kai.or.jp  
Tel:03-3386-9139

戦争を語り継ぐ

## 忘れない伝えたい

### 平和と慰霊の旅 —靖国神社・横網町公園—

7月17日、靖国神社の軍事博物館「遊就館」、横網町公園にある「東京都慰靈堂」「復興記念館」など28人で訪れ、本所の料理店で食事をしました。

今だからこそ戦争の悲惨さ、平和の尊さを歴史に学び、戦争体験者が少くなりつつある中、この時代に生きる私たちには次の世代に伝えていくことが大切です。参加者で戦争体験者の安斎登さんから旅の感想をいただきました。

#### 戦争しないと誓う

西荻診友の会 安斎 登

時宜にかなった上に、日頃から行きたいと思っていた場所なので、友の会は違いますが、参加させていただきました。

当日は暑い日でしたが、車いすの方もおられ、決して若いとは言えない方々なのに、途中で帰る人はありませんでした。見学場所が無関心ではいられ

ない身近なところであり、時代もかわり深いものがあったからでしょうか。

昭和20年（1945年）日本の男性の平均寿命は、23・9歳。これ



遊就館に展示されている零戦



東京都慰靈堂

首相や閣僚が靖国神社に詣でることを、外国のどこも強く非難する者は見られません。

雷「回転」などもあって、国民の犠牲を悲しんだり、反省する真摯な姿勢は見られます。

戦争をしてはならないとあらためて強く心に誓いました。

この企画を実施してくださった皆様にお礼申し上げます。



千鳥ヶ淵戦没者墓苑にお参りして

がアジア太平洋戦争終結時の状況でした。現在の男性の平均寿命は80歳になっています。この戦争でアジアでは200万人、そのうち日本は310万人の死者を出しています。

靖国神社は国民を侵略戦争に駆り立てるための象徴でした。日本政府は、美辞麗句を並べ、反対者には厳しい弾圧を加え続けました。

遊就館は、平和団体の人のガイドで見学したのですが、展示品の中には、零式艦上戦闘機や人間魚雷「回転」などもあって、国民の犠牲を悲しんだり、反省する真摯な姿勢は見られません。

靖国神社や遊就館を見て、再び戦争をしてはならないとあらためて強く心に誓いました。

この企画を実施してくださった皆様にお礼申し上げます。



今年も平和バザーのために多くの会員から愛成会の手づくりパンなどと一緒に大盛況のうちに、バザーの収益は64,288円になりました。猛暑の7月24日、すいとんをはじめ産直野菜、パンなどを販売しました。総合的な原水禁世界大会に参加する代表団に千羽鶴と一緒に手渡しました。

#### 少年兵教育 命令でやむなく私 捕虜を刺した黒田 千代吉さん

陸軍／歩兵／中国戦線  
1944年9月 現地入営

投足まで厳しく指導する。「やああ」と銃剣を突く見本を見せる。「声が小さい」「気合が足りない」容赦なく鞭が飛ぶ。「これから前方の敵を突く。我と思わん者は、出て来い」

敵が見えない。誰も出て行かない。  
「前々突け」の反復で前進すると、  
自隠しの捕虜が見えた。分隊長は  
「誰か出て来い」と顔を真っ赤にして号令する。誰も出てこない。

上等兵は銃口を俺に向かた。絶対命令の窮地だ。銃殺されるより、相手を突くほうが助かるとの咄嗟の判断で、銃に剣を着け、二、三歩前進して「よおし、俺に付いて来い」脱兎の如く走る、遅れじと走った。「構え銃」咄嗟に構えた。夕日に映えてピカッと剣が光つた。「前の敵を突け」腹からの爆発した号令。「やあ！」と心臓めがけて踏み込みざま突く、抜く。その間百分の一秒たらずの一

平和は、平和を愛する心を持つた人によって築かれるものだと私は確信します。平和を守るために憲法9条を国民運動として展開して、世界全体に広め、核兵器のない平和を皆さんお伝えいたします。戦争は大嫌い。

※「戦場体験放映保存の会」の許可を得て、「第2回あの戦場体験を語り継ぐ集い」集の黒田千代吉さんの戦場体験を掲載させていただきました。お礼申し上げます。

三千キロの行軍をして、何十万といふ敵のど真ん中で、炎天下銃剣術の特訓を受けていた。油断は絶対許さない。生か死かの狭間で銃声、砲声がしている状況だ。

百戦錬磨の分隊長は、眼光鋭く輝き、一寸の隙もない形相で一举手一

「名前を呼ばれたら出て来い」と黒田千代吉さん

「前々突け」の反復で前進すると、  
自隠しの捕虜が見えた。分隊長は  
「誰か出て来い」と顔を真っ赤にして号令する。誰も出てこない。

上等兵は銃口を俺に向かた。絶対命令の窮地だ。銃殺されるより、相手を突くほうが助かるとの咄嗟の判断で、銃に剣を着け、二、三歩前進して「よおし、俺に付いて来い」脱兎の如く走る、遅れじと走った。「構え銃」咄嗟に構えた。夕日に映えてピカッと剣が光つた。「前の敵を突け」腹からの爆発した号令。「やあ！」と心臓めがけて踏み込みざま突く、抜く。その間百分の一秒たらずの一

ご協力ありがとうございました

